

学校法人西大和学園
白鳳短期大学
機関別評価結果

平成 29 年 3 月 10 日
一般財団法人短期大学基準協会

白鳳短期大学の概要

設置者	学校法人 西大和学園
理事長	田野瀬 太樹
学 長	平林 春行
A L O	國嶋 智行
開設年月日	平成 10 年 4 月 1 日
所在地	奈良県北葛城郡王寺町葛下 1-7-17

<平成 28 年 5 月 1 日現在>

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
総合人間学科	国際人間学専攻	30
総合人間学科	こども教育専攻	100
総合人間学科	看護学専攻	90
総合人間学科	リハビリテーション学専攻	40
	理学療法学課程	
総合人間学科	リハビリテーション学専攻	20
	作業療法学課程	
合計		280

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	地域看護学専攻	40
専攻科	助産学専攻	40
専攻科	リハビリテーション学専攻	20
	言語聴覚学課程	
専攻科	リハビリテーション学専攻	10
	理学療法学課程	
合計		110

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

白鳳短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 29 年 3 月 10 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 27 年 7 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて改善に努めており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、平成 10 年に設立された白鳳女子短期大学国際人間学科（現総合人間学科）を母体とし、平成 14 年に国際人間学専攻と国際幼児保育専攻（現こども教育専攻）、平成 17 年に看護学専攻、平成 19 年に理学療法学専攻（現リハビリテーション学専攻）を設置しており、平成 27 年には現校名の白鳳短期大学に変更した。

建学の精神は、「国づくりは人づくり 人づくりは教育」を具現化し、国家や社会に役に立つ有為の人材を育てることであり、人間性・国際性・社会性・専門性の涵養を教育の根幹としている。設置する四つの専攻課程は、「豊かな人間性」、「グローバルな視野」、「高いコミュニケーション能力」、「高度な専門的知識」を備えた専門職や留学生を育成するという教育目的と目標を定め、「専攻運営マニュアル」で教員の意識の共有を図っている。主な学習成果は、国際人間学専攻は日本語能力試験の取得等級、こども教育専攻は幼稚園教諭二種免許状や保育士資格等の取得、看護学専攻は看護師国家試験の合格、リハビリテーション学専攻は理学療法士国家試験の合格によって測定しており、学習成果の獲得のために、「学習状況報告書」や「やる気満足度シート」等による学生の学習状況の改善、専任教員の自己指導力の向上、短期大学全体の教学マネジメントの改善・充実に向けた各 PDCA サイクルを重視している。なお、評価の過程で、各学科・専攻課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について学則等に定められていないという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、当該短期大学の継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けてより一層の自己点検・評価活動が求められる。

建学の精神に従って学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針が定められ、それぞれ教職員、学生に説明、共有されている。成績評価は厳格に行われ、教育の質保証を十分に図っている。専攻課程ごとに担当が学生一人ひとりの学習成果の獲得状況の把握や出席状況や授業態度、小テスト等の結果等を踏まえた個別指導をきめ細かく行い、資格取得、就職試験、編入学希望に応じて進路支援も行われ、各専攻課程とも十分な実績を維持している。FD 活動として、学生による授業評価である「授業アンケート」

を実施し、その結果を受け「授業アンケートの分析と改善点」のシートを通じて自己分析するとともに、専攻課程ごとに前期・後期に「研究授業」が行われている。また、「社会貢献」を学位授与の方針の一つに定めており、各専攻課程の専門性を生かした多彩な地域貢献活動を積極的に行っている。

教員組織は専攻課程の専門性を生かせるよう編制され、専任教員数・教授数等は、短期大学設置基準を充足している。事務組織は、各部長に教育職員または事務職員を配置することで一体となって業務を遂行し、教育効果を高める組織となっている。校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しており、各専攻課程の専門性に即応する演習室や実験・実習室を設置し、必要な器具・教材等を適正に整備している。また、学校法人全体及び短期大学部門の過去 3 年間の事業活動収支は収入超過であり、財務状況は良好に推移している。なお、評価の過程で、前回の第三者評価時に指摘を受けた教育研究経費比率が依然として低いまま継続しているという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善するとの報告を受けた。今後は、継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けたより一層の取り組みが求められる。

理事長は、建学の精神及び教育理念・目的を実現すべく学校法人運営に携わり、また、理事会は学校法人内外の必要な情報を収集し、短期大学の将来像に向けた改革・改善の提言や計画を適宜検討している。学長は、当該学校法人系列校でのこれまでの経験に基づき短期大学の運営に当たり、専任教員の授業改善や研究活動の活性化等にも積極的に参画している。監事は、適正に学校法人の業務、財産の状況について監査を行い、評議員会も適正に運営されている。学校法人は、中・長期財務計画に基づいて事業計画案及び予算案をとりまとめ執行し、資産及び資金の管理と運用は法人本部が一括して安全に管理し、学校法人及び短期大学のウェブサイトにおいて教育情報及び財務情報の公表・公開を行っている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実に図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ B 教育の効果]

- 学生が自身の学習状況や学習上の課題を「学習状況報告書」や「やる気満足度シート」に毎日記録し、毎週担当教員が学習状況や満足度等を確認するとともに、学習状況に課題があると思われる学生には学習態度や学習方法等の指導・支援を直ちに行うなど、き

め細かな指導資料として活用している。

- 個々の学生の学習成果の獲得状況、個々の専任教員の授業改善の状況、さらには専攻課程ごとの専門教育の改善状況を把握し改善を推進するため、学生の「学習状況報告書」、「やる気満足度シート」や専任教員の「自己評価シート」による把握と検討、毎週の「専攻会議」や毎月の「大学協議会」を通して、それぞれのPDCAサイクルを機能させ、組織的に改善を図っている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 留学生を対象とした国際人間学専攻では、日本での生活に支障がないようきめ細かな支援を行う一方、卒業後の留学生の就労状況を確認し、就労上の悩みや課題に対しても継続的な支援を行っている。

[テーマ B 学生支援]

- FD 活動として、全ての専攻課程で前期・後期ごとに「研究授業」を義務付け、専攻課程ごとに専任教員が参加し意見交換が行われているほか、全ての授業は原則公開され随時授業参観を可能としており、このような各専攻課程の授業改善は短期大学全体のFD 研修会を通じて全専任教員に共有されている。
- 社会貢献を学位授与の方針に定めており、国際人間学専攻では留学生の地域活動を成績評価しているほか、保育、看護、リハビリテーションといった専門職を養成する各専攻課程でもボランティア活動の実績を科目の一部として評価するなど、専門性を生かした多彩な地域貢献活動を積極的に推進している。
- 専門職の資格取得、就職試験、編入学等について各専攻課程の進路の特性を踏まえ個別指導が行われており、こども教育専攻では教員採用試験対策、看護学専攻及びリハビリテーション学専攻では国家試験対策としてチューターによる少人数指導をきめ細かく行うことによって、国家試験合格者は高率を維持し、専門職就職希望者の就職率も非常に高い。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長は、各専攻課程の専門教育の改善・充実のために積極的に教職員との意見交換やアドバイスをを行い、また専任教員の研究授業にも参加し意見を交換したり、学生による授業評価に基づく教員の改善計画に全て目を通すなど、FD 活動に積極的に関与している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 平成 28 年度学生便覧では、それまでなかった各専攻課程の教育目的・目標、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び学習成果が記載されている。しかし、目次を含め分かりにくい表示、表記になっているので、それぞれ項目を立てて明記し、学内外に明確に理解されやすい記述の工夫、検討が望まれる。
- シラバスでは、成績評価の方法及び基準が抽象的な表記にとどまる専門教育科目が多数みられるので、より具体的、客観的な記載が望まれる。
- 各専攻課程の学習成果の獲得状況について、日本語能力試験の合格率、保育職の免許・資格の取得率、看護師や理学療法士の国家試験合格率等の量的測定のみならず、各専攻課程が専門教育で重視しているコミュニケーション能力や協調性、実践的指導力等の獲得状況を質的に評価する方法について、今後検討を進めることが望まれる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ B 物的資源]

- 学生が自由に利用できる学内スペースが少ないことから、キャンパス・アメニティの改善、図書館の蔵書数の充実や閲覧席の増設、図書資料検索システム等の改善、教室及び学内の情報環境の整備や機器・備品の更新を含めた総合的な改善計画を策定、実施することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ B 教育の効果]

- 評価の過程で、各学科・専攻課程の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について短期大学設置基準の規定どおり学則等に定められていないという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。今後は、当該短期大学の継続的な教育の質保証を図るとともに、法令順守の下、より一層自己点検・評価活動の向上・充実に努められたい。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ D 財的資源]

- 評価の過程で、前回の第三者評価時に指摘を受けた教育研究経費比率が依然として低いという問題が認められた。

当該問題については、機関別評価結果の判定までに改善するとの報告を受けた。今後は、継続的な教育の質保証を図るとともに、その向上・充実に向けた取り組みにより一

層努められたい。

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

基準	評価結果
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ 教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ 教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

建学の精神は、「国づくりは人づくり 人づくりは教育」を具現化し、国家や社会に役に立つ有為の人材を育てることであり、人間性・国際性・社会性・専門性の涵養を短期大学教育の根幹をなす精神として今日に至っている。建学の精神は学生便覧に掲載され、学長は入学時オリエンテーションで説明し、創設者である前理事長は各専攻課程の1年生に講話しているほか、各専攻課程の必修科目「人間学研究」でも説明している。また、教職員研修会や新任研修会で建学の精神と教育方針を学長が説明しており、平成28年度より学校案内、入試ガイドに掲載し、建学の精神をウェブサイト等で外部に表明している。

設置する四つの専攻課程は、「豊かな人間性」、「グローバルな視野」、「高いコミュニケーション能力」、「高度な専門的知識」の四つの視点を備えた専門職や留学生の育成に向けて教育目的と目標を定めている。平成27年度には表記の統一及び短期大学全体と各専攻課程の教育目的と目標の関連付けを図るため見直しを行った。なお、学科・専攻課程ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が学則等に定められていなかった点については、機関別評価結果の判定までに改善されたことを確認した。各専攻課程は「専攻運営マニュアル」に基づき、専門教育に対する教員の意識統一を図っており、年度末の「大学協議会」で当年度の目的・目標の達成状況と次年度の改革・改善の目標を確認している。

各専攻課程の主な学習成果は、国際人間学専攻は日本語能力試験の取得等級、こども教育専攻は幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格等の取得、看護学専攻では看護師国家試験の合格、リハビリテーション学専攻では理学療法士国家試験の合格等、各専攻課程に関連する資格や国家試験の合格等で量的な査定と評価をしている。また、その点検手段として、個々の学生の「学習状況報告書」や「やる気満足度シート」を活用している。「常に改革改善」を合言葉に、学生の学習成果獲得のためのPDCAサイクル、専任教員の指導力向上のためのPDCAサイクル、短期大学全体の教学マネジメントをより向上・充実させるためのPDCAサイクルという三つのサイクルを設定している。

「白鳳短期大学自己点検・評価に関する規程」、「自己点検・評価委員会規程」に基づき自己点検・評価を実施しているが、特に授業改善や短期大学運営のPDCAサイクルの促進を重視し、各専攻課程・各事務部門は年度目標の達成や指導計画の履行の状況を自己評価するとともに、次年度の目標と新たな指導計画を立案している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は、建学の精神及び教育目的・目標に基づいており、各専攻課程は目指す専門職に必要な資質に合わせて具体的に定めている。この方針は各専攻課程の学習成果に対応しており、教職員には「教職員研修会」を通じて共有され、学生にはオリエンテーションや学生便覧で説明している。学習成果の査定は、各専攻課程の専門性に合せた量的な査定と評価を中心としている。各専攻課程はそれぞれの目指す専門職に必要な教育課程編成・実施の方針を定めている。平成 27 年度に、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針が対応しているかを各専攻課程で点検を行い、あわせて「カリキュラムマップ」の点検と見直しを行った。しかし、平成 28 年度学生便覧では、それまでなかった各専攻課程の教育目的・目標、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び学習成果が記載されたが、目次を含め分かりにくい表示、表記になっているので、それぞれ項目を立てて明記し、学内外に明確に理解されやすい記述の工夫、検討が望まれる。各専攻課程の教育課程は、学位授与の方針に基づいて体系的に編成されており、成績評価もシラバスに示された内容に従って厳密に行われているが、シラバスにおいて、成績評価の方法及び基準が抽象的な表記にとどまる科目についてはより具体的、客観的な表記となるよう改善されたい。入学者受け入れの方針は、各専攻課程の学習成果に対応し、学ぶための意識と意欲、専門職としての人間的資質を求める内容となっている。卒業時には短期大学教育の満足度調査を実施するとともに、専攻課程ごとに卒業後評価の取り組みを行っている。

学生一人ひとりの学習成果の獲得状況の把握と指導は主に担任が行い、出席状況や授業態度、成績等の結果や「学習状況報告書」等を踏まえ個別指導を行っている。進路支援も各専攻課程の担任が指導を行い、資格取得、就職試験、編入学希望に関しても各専攻課程の特質と事情を踏まえて行っている。必要に応じて小テストや補習授業を行うほか、こども教育専攻では「教員採用試験対策」による進路支援や、看護学専攻やリハビリテーション学専攻では担任以外にチューターによるきめ細かな指導が行われ、国家試験の合格率は高率を維持している。今後、各専攻課程の学習成果の獲得状況について、免許・資格等の取得率や国家試験合格率等の量的測定のみならず、各専攻課程が専門教育で重視しているコミュニケーション能力や協調性、実践的指導力等の獲得状況を質的に評価する方法について、検討を進めることが望まれる。

学生による授業評価アンケートは前期・後期ごとに実施され、その結果を各教員が「授業アンケートの分析と改善点」を通じて分析し、学長・副学長に報告後専攻会議で検討され、授業改善の意思疎通が図られている。また、専攻課程ごとに前期・後期各 1 回「研究授業」が行われ意見交換をするとともに、授業は原則公開され随時参観が可能となっている。

学生に対する生活支援は、担任が相談と指導の窓口としての役割を担い、必要に応じて保健室でも学生相談を行っている。

社会貢献を学位授与の方針の一つとして定めており、また、国際人間学専攻では留学生の地域活動を成績評価しているほか、保育、看護、リハビリテーション等の専門職養成の専門教育においても、ボランティア活動の実績を関連科目の評価の一部とするなど、各専

攻課程の専門性を生かした多彩な地域貢献活動を積極的に行っている。

入学者受け入れの方針は入試ガイドに明示されている。国際人間学専攻の留学生には、日本語への不安に対して入学予定者に入学前学習カリキュラムを用意し、ほかの三つの専攻課程の推薦入試の合格者には、任意ではあるが入学前教育プログラムとして外部委託の通信教育による学習指導を行っている。また、入学手続者を対象に、入学前にオリエンテーションを複数回実施している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員組織は、教育課程編成・実施の方針に基づいて専攻課程の専門性を生かせるように編制され、専任教員数・教授数等は、短期大学設置基準を充足している。教員の採用、昇任は、「白鳳短期大学就業規則」、「白鳳短期大学教員新任昇任選考規程」等に基づいて適正に行われている。専任教員は、学会発表や研究紀要への投稿など近年積極的に研究活動を行っており、専任教員の研究活動は毎年発行される「白鳳短期大学研究紀要」で公開している。

FD活動は、「白鳳短期大学FD・SD規程」に基づきFD委員会や各専攻課程が企画・運営している。研究室として専攻課程ごとに共同研究室を整備し、教員同士の情報の共有や意見交換、教員相互の緊密な連携が行われている。新任教職員には新任教職員研修会で人事管理方針を説明し意識の共有を図るとともに、非常勤教員にも同様に説明会を行っている。

事務組織は、各部長に教育職員又は事務職員を配置することで一体となって業務を遂行し、教育効果を高める組織になっている。平成27年度に「白鳳短期大学FD・SD規程」を制定しSD活動は緒についたばかりであるが、業務の見直しや事務処理の改善は、日々の業務の中で管理職が見直し・改善に取り組んでいる。

防災対策については、火災・地震対策のために防災マニュアル及び消防計画を定め、年1回避難訓練を実施し、個人情報及びコンピュータシステムのセキュリティ対策も講じている。

校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しているが、学生が自由に使用できるスペースの確保や障がい者に対する建物間の連絡通路のスロープ化等に課題がある。また、図書館では閲覧席、書架、書庫等を整備し、図書の選定・購入は図書館委員会で決定しているが、席数や蔵書数、図書検索システム等に課題がある。各専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービスや専門教育への支援、ハードウェア及びソフトウェアの向上・充実を図っており、保育、看護、理学・作業療法等の各専攻課程の専門性に即応する演習室や実験・実習室を設置するとともに、必要な器具・備品、教材等を適正に配置している。

なお、看護学専攻では平成25年度、26年度、27年度の入学定員充足率が130パーセント以上となっており、前回第三者評価においても入学定員・収容定員超過の課題が指摘されていたことから、適正な教育水準を維持するためにも入学者数の厳格な管理を図る必要がある。

学校法人全体の事業活動収支は健全であり、短期大学部門についても事業活動収支、経

常収支とも収入超過である。ただし、評価の過程で、前回の第三者評価時に指摘を受けた教育研究経費比率が依然として低いまま継続しているという、早急に改善を要する事項が認められたが、その後、機関別評価結果の判定までに改善するとの報告を受けた。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、当該学校法人系列校の学校運営の実務を担ってきており、建学の精神及び教育理念・目的を実現すべく学校法人運営に意欲的に携わっている。理事会は、各年度の事業計画や事業報告、予算・決算を適正に審議しているほか、必要な情報を収集し、当該短期大学の将来像に向けた改革・改善の提言や計画を適宜検討している。理事は寄附行為に従い、適切に選任されている。

学長は、併設の中学校・高等学校の校長及び副学長としての経験に基づき当該短期大学の運営に当たり、専任教員の授業改善や研究活動の活性化等にも積極的に参画している。平成 27 年の学校教育法の改正に対応して、教授会の位置付けを教育研究上の審議機関と改め、あせて各種委員会の位置付けも継続的に検討している。年度末には各専攻課程の学習成果の点検と見直しを実施して、その結果は「大学協議会」での協議を経て、教授会で審議している。

監事は、学校法人の業務及び財産の状況に関して適宜監査を行うとともに、公認会計士と連携を図り意見交換を行うなど、適切に業務を遂行している。また、理事会及び評議員会に出席し、必要に応じて意見を述べている。監事は、学校法人の業務及び財産の状況について毎会計年度に監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に提出している。また評議員会は、寄附行為に基づき理事定数の 2 倍を超える評議員で構成され、理事長を含め役員の諮問機関として適正に運営されている。

学校法人は、「中・長期財務計画書」に基づいて事業計画案及び予算案をとりまとめ、評議員会への諮問を経て理事会で承認された事業計画、予算を関係部門に周知し執行している。資産及び資金の管理と運用は、規程に基づき適切な会計処理により、法人本部が一括して安全に管理している。学校法人及び短期大学のウェブサイトにおいて教育情報及び財務情報の公表・公開を行っている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

職業教育の取り組みについて

総評

当該短期大学には四つ専攻課程が設置されているが、国際人間学専攻を除く三専攻はいずれも専門職を養成する課程である。全専攻課程必修科目の「人間学研究」で、短期大学の理念となる人間性の涵養を各専攻課程の特質、特色に基づいて教授し、専門職としての使命感・責任感の育成を行っている。

国際人間学専攻では、留学生に対して日本語習得のための別科を準備し、入学後の学修が円滑になるよう配慮している。日本での就職を希望する学生には国内で働くために必要な資質・能力を獲得させ、社会人として求められる基本的なビジネスマナーやビジネススキルを高めている。また、国内での就職に必要な在留資格の変更を支援し、就職先の開拓や進路指導を充実させ、国内就職を目指す留学生はほぼ全員が就職を果たしている。

こども教育専攻では「実践力を備えた保育者・教員の養成」を目指し、看護学専攻とリハビリテーション学専攻では、専門職に必要な使命感・責任感と人間性の涵養を重視している。それぞれが目指す専門職の正しい理解を図るため、各専攻課程が目指す専門職の業務、使命、責任について、高等学校での説明会やオープンキャンパスにおける「職業体験」等を通じて、高校生が理解しやすいように丁寧に説明している。また、これらの専門職を目指す入学予定者に対して、入学後の不安を取り除くために専攻課程ごとに入学前、複数回にわたりオリエンテーションを行い、また任意ではあるが、外部委託の通信教育を取り入れ基礎学力の補充に努めている。

入学後は担任による年2回の定期的な面接を行い、一人ひとりの学生に対して丁寧に相談、指導に当たり、中途退学や休学を抑制すべく支援している。こうした個別の支援体制や「退学者抑制マニュアル」の活用等によって、過去5年間の退学者は激減している。看護師や理学療法士の国家試験に対しても、各専攻課程で試験合格のための指導体制が整えられ、100パーセントに近い合格率を維持しており、専門職への就職も高率を継続している。

こども教育専攻、看護学専攻、リハビリテーション学専攻では、積極的に地域におけるボランティア活動を勧めており、コミュニケーション能力や人間性を育成する場、職業的使命・責任を理解する場として活用している。今後も一層、職業教育の成果をあげられることや、卒業後のリカレント教育への取り組みにも期待したい。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 国際人間学専攻の留学生に対して、日本語教育や国内での就職に必要な資質・能力を獲得するよう指導を充実させ、在留資格の変更を含めた支援や就職先の開拓に努力を重ねており、就職を目指す留学生はほぼ全員が日本あるいは母国での就職を果たしている。
- こども教育専攻では王寺町保育センターでの保育ボランティア、王寺町立図書館での絵本読み聞かせボランティア等のほか、専門教育においても様々なボランティアの場も活用しながら、実践的活動を重視した養成教育に積極的に取り組んでいる。
- リハビリテーション学専攻では、学生が専門性の正しい理解と認識の下に学べるよう入学前の職業理解に努め、また看護学専攻も入学後の学生の相談・支援体制を整え、両専攻課程ともに国家試験対策を充実させており、国家試験の合格率は高率を維持し、専門職への就職もほぼ 100 パーセントとなっている。

地域貢献の取り組みについて

総評

当該短期大学は、地元の王寺町の基本構想「開かれた文化都市・王寺」の実現のため町の強い要望によって開設されたという設立の経緯から、開学以来、地元を中心とした地域貢献に全学挙げて力を注いできた。

四つの専攻課程の特色を生かした地域住民向けの公開講座「白鳳短期大学セミナー」は、住民のニーズに応える内容で長年にわたり開催されてきた。特に国際人間学専攻では「国際交流セミナー」として留学生が母国の文化を紹介し、国際理解の進展にも寄与してきた。近年、留学生の出身国に偏りがみられることから、交流内容について、地域住民の要望を受け止めながら改善すべく検討を重ねている。こども教育専攻では、「ボランティア実習」や保育ボランティアなど保育に関連した地域活動や乳幼児、未就学児親子を対象とした人形劇、折り紙、紙芝居やコンサートなど開催し、実践的能力を確実に身に付ける場として生かしている。看護学専攻及びリハビリテーション学専攻でも、地域の社会福祉施設や病院等からの要請を受けてボランティア活動に参加するなど、専門性を生かした地域活動を展開している。

通常実施している公開講座以外にも、教職員は地域との連携を図るため周辺自治体の要請に応じて、教育・行政部門の有識者として様々な会議や審議会等に参画し、人的な地域貢献を果たしている。学生たちも地元の「健康チャレンジ教室」を通じて地域の高齢者と交流を行い、また、王寺町住民課に設置されている「水の緑の町づくり町民運動推進委員会」では当該短期大学の学友会が、「CCC 活動」(美しい(クリーン)王寺の町を創造(クリエイト)するため、公園・街路等の清掃等、街の美化作業を自発的に行うために組織された団体(サークル))を立ち上げ毎年 8 回参加し、これまでの参加者はすでに 1000 人を超えている。

当該短期大学の教育目標である人間性の涵養は、これらの地域の人々との触れ合いや交流からも達成されるものであり、平成 28 年度に王寺町との地域連携協定を締結したこと

をきっかけに、今後一層の全学的な地域貢献活動が展開されることを期待したい。なお、学生のボランティア活動の単位化や成績評価への活用の更なる検討や、専攻課程を越えて全学的な取り組みとなるようボランティア情報の共有や事後の活動報告等のあり方の検討を望みたい。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 当該短期大学開設当初より、地元自治体である王寺町と連携し、地域住民に向けた公開講座「白鳳短期大学セミナー」を開催し、各専攻課程の専門性を生かした取り組みを継続している。
- 「国際交流セミナー」で、留学生の母国の料理や芸術、芸能を通じてセミナー参加者と交流するなど、体験型への内容の変更を進めており、住民のニーズや留学生の現状に沿った改善を図っている。
- 王寺町福祉介護課の高齢者の健康増進を目的とした「健康チャレンジ教室」に、地元の歯科医師、理学療法士と協力し、国際人間学専攻の留学生が高齢者のサポートと交流を目的として参加している。
- 王寺町住民課所管の「水の緑の町づくり町民運動推進委員会」による「CCC活動」(美しい(クリーン)王寺の町を創造(クリエイト)するため、公園・街路等の清掃等、街の美化作業を自発的に行うために組織された団体(サークル))に、学友会が発足時より積極的に参加するなど熱心に取り組んでいる。